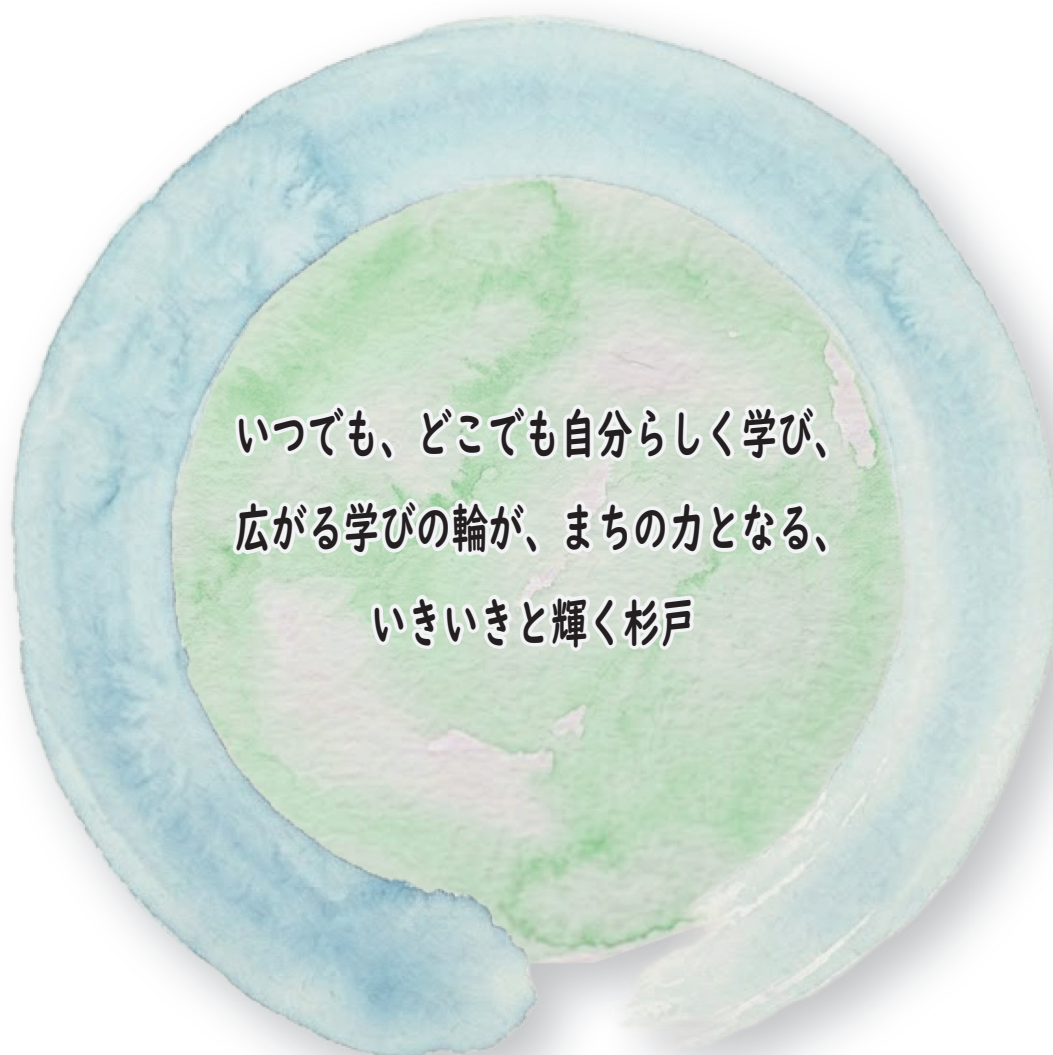


杉戸町生涯学習推進計画



令和8年3月

杉戸町 / 杉戸町教育委員会

目次

| | |
|---|----|
| 第 1 部 計画の概要 | 1 |
| 1. 計画策定の趣旨 | 1 |
| 2. 計画の位置づけ | 2 |
| 3. 計画の期間 | 4 |
| 第 2 部 杉戸町の現状と生涯学習を巡る課題 | 5 |
| 1. 杉戸町の現状 | 5 |
| 2. 住民アンケート調査の結果から | 6 |
| 3. 課題の整理 | 8 |
| 第 3 部 計画の基本理念と施策 | 9 |
| 1. 基本理念 | 9 |
| 2. 計画の構造 | 11 |
| 3. 4 つの課題 | 13 |
| 4. 6 つの基本目標 | 13 |
| 5. 施策の体系 | 14 |
| 施策 1-1：町民ニーズを反映したテーマ別学習プログラムの企画・実施 | 15 |
| 施策 1-2：柔軟な学習形態とデジタル活用による学習機会の拡充 | 16 |
| 施策 1-3：町民の多様な目的に応じた、資格取得や仕事に役立つ学びへのアクセス支援 | 17 |
| 施策 1-4：地域資源を活かした杉戸ならではの学習プログラム開発・提供 | 18 |
| 施策 2-1：参加障壁の分析に基づく学びのきっかけづくり | 20 |
| 施策 2-2：学びの楽しさや多様な価値を伝える広報・啓発 | 21 |
| 施策 2-3：参加を促すための効果的・多角的な情報提供 | 22 |
| 施策 2-4：学びの継続を支える交流促進・居場所づくり | 23 |
| 施策 3-1：学習成果を活かす多様な機会の創出・提供 | 25 |
| 施策 3-2：学びと地域ニーズのマッチング支援機能の強化 | 26 |
| 施策 3-3：時間制約に対応した柔軟な地域貢献スタイルの推進 | 27 |
| 施策 3-4：学習成果を活かした活動の「見える化」と評価・顕彰 | 28 |
| 施策 4-1：多様な主体（企業、NPO、高等教育機関等）との連携強化 | 30 |
| 施策 4-2：学校と地域が連携・協働できる仕組みづくりと推進 | 31 |
| 施策 4-3：地域を支える人材の発掘・連携・活用 | 32 |
| 施策 4-4：既存の学習団体・地域活動団体の活動支援と連携促進 | 33 |
| 施策 5-1：学びの安全・安心・快適を支える物理的環境の整備・維持 | 35 |
| 施策 5-2：必要な学習情報へ容易にアクセスできる情報環境の構築・強化 | 36 |
| 施策 5-3：デジタル技術を活用した学びやすい環境の整備と利用促進 | 37 |
| 施策 5-4：学びに関する個別のニーズに対応する相談支援体制の充実 | 38 |
| 施策 6-1：各ライフステージの学習ニーズ及び関連情報の継続的な把握 | 40 |
| 施策 6-2：各ライフステージの特性に応じた、学びの機会及び情報提供の企画・実施 | 41 |
| 施策 6-3：ライフステージの変化に伴う学びへの円滑な接続支援 | 42 |

| | |
|-------------------------------|----|
| 施策6-4：多世代交流・連携を通じた学びの推進 | 43 |
| 第4部 計画の推進 | 44 |
| 1. 推進体制 | 44 |
| (1) 町の役割 | 44 |
| (2) 多様な主体との連携・協働 | 45 |
| ①町民・家庭 | 45 |
| ②学校・教育機関 | 45 |
| ③企業・NPO・各種団体（指定管理者を含む）..... | 45 |
| 2. 進行管理と評価 | 46 |
| (1) 進行管理 | 46 |
| (2) 評価と見直し | 46 |
| 資料編 | 47 |

発刊にあたって

～「学びの好循環」の実現を目指して～

この度、町民の皆様をはじめ、多くの関係各位のご理解とご協力を賜り、「杉戸町生涯学習推進計画」を策定いたしました。本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました審議会委員の皆様、ならびにご尽力いただきました皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

さて、デジタル化の急速な進展や人生100年時代の到来など、私たちを取り巻く社会情勢は絶えず変化しています。このような時代において、自らの興味や関心に基づき、誰もが主体的に学び続ける「生涯学習」の重要性は、かつてないほど高まっています。

杉戸町では、町民一人ひとりの学びが、個人の生きがいに繋がるだけでなく、その成果を地域社会や社会貢献へと繋げ、まち全体の活力となる「学びの好循環」の確立を目指しております。本計画では、その姿を「いつでもどこでも、自分らしく学び、広がる学びの輪が、まちの力となる、いきいきと輝く杉戸」という基本理念に込めました。

この計画が、町民の皆様が新たな一步を踏み出すきっかけとなり、杉戸町が世代を超えて学び合い、支え合うまちとして、さらに発展していくための一助となることを願っております。

結びに、町民の皆様、そして関係団体の皆様におかれましては、本計画の趣旨にご理解を賜り、生涯学習を通じた魅力あるまちづくりへの一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、発刊のあいさつといたします。

令和8年3月

杉戸町教育委員会教育長 伊藤 美由紀

第1部 計画の概要

1. 計画策定の趣旨

現代社会は、グローバル化の進展、情報通信技術の革新、予測困難な社会情勢の変化など、かつてないスピードで変化しています。このような時代において、人々が変化に主体的に対応し、豊かに生き抜くためには、学校教育や社会教育といった既存の枠組みを超え、生涯にわたり自ら学び続ける「生涯学習」の重要性がますます高まっています。

生涯学習は、個人の自己実現や生きがいの創出に不可欠であるとともに、学びを通じて培われた知識や技能が地域社会の活性化、ひいては持続可能なまちづくりにも大きく貢献するものです。

本町では、平成4年度に策定された「杉戸町生涯学習推進計画」（計画期間：平成5年度～平成12年度）に基づき、町民が「いつでも、どこでも、だれでも、ひとりでも」学ぶことができる生涯学習の環境整備と活動推進に取り組んでまいりました。この計画により、生涯学習推進体制の整備や学習機会の提供などにおいて一定の成果を収めました。続いて、「学び、輝き、思いやり、ともに生きる人づくり」を目標として、平成13年度から平成22年度までを計画期間とする「第2次杉戸町生涯学習推進計画」が策定され、生涯学習施策の推進が図られてきました。

しかしながら、第2次計画の終了以降、約15年間は、社会情勢の変化や限られた行政資源の有効活用、既存施策の継続的な評価・改善に重点が置かれたことなどから、新たな生涯学習推進計画の策定は見送られてきました。

めまぐるしく変化する社会の中で、町民一人ひとりが生涯にわたり自分らしく学び続け、その学びを地域社会に活かす「生涯学習社会」の実現を目指す上で、現在の社会情勢や町民ニーズに対応した新たな計画が不可欠となっています。

本計画は、このような状況を踏まえ、令和8年度から10年間の計画として策定するものです。

2. 計画の位置づけ

本計画は、町民一人ひとりの主体的な生涯学習活動を町が支援し、その成果を豊かな地域社会づくりに活かしていくための基本的な考え方や施策の方向性を示すものです。その策定にあたっては、国や埼玉県の動向や方針を踏まえつつ、本町の地域特性や町民ニーズといった実情に即した、実効性のある取組を推進します。

生涯学習の理念は、平成18年に改正された教育基本法において、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と定められ、国の法制・政策の根幹に位置づけられました。

この理念に基づき、令和5年6月に閣議決定された「**第4期教育振興基本計画**」の中では、コンセプトとして「**持続可能な社会の創り手の育成**」と「**日本社会に根差したウェルビーイングの向上**」が掲げられ、その実現に向けた重要な方向性の一つに「**生涯学び、活躍できる環境整備**」が明確に位置づけられています。

こうした国の大きな方針を受け、GIGAスクール構想に代表されるデジタル環境の整備は、いつでもどこでも学べる環境の実現を後押ししています。さらに、持続可能な社会の実現に向けたSDGs（持続可能な開発目標）の達成においても、生涯学習は不可欠な要素として位置づけられています。

埼玉県においては、**令和5年3月に「埼玉県生涯学習推進指針」が改定**されました。この指針では、県が目指す生涯学習社会のあり方を「『**人づくり・つながりづくり・地域づくり**』を推進する**生涯学習社会**」と捉え、その実現に向けた3つの柱として「**人づくりを支える**」「**つながりづくりを支える**」「**地域づくりを支える**」ことが示されています。この指針に示された理念は、現在推進されている「第4期埼玉県教育振興基本計画」の考え方と方向性を同じくするものであり、生涯にわたる学習機会の確保や、多様な主体との連携による学びの推進が、引き続き県の重点施策として掲げられています。

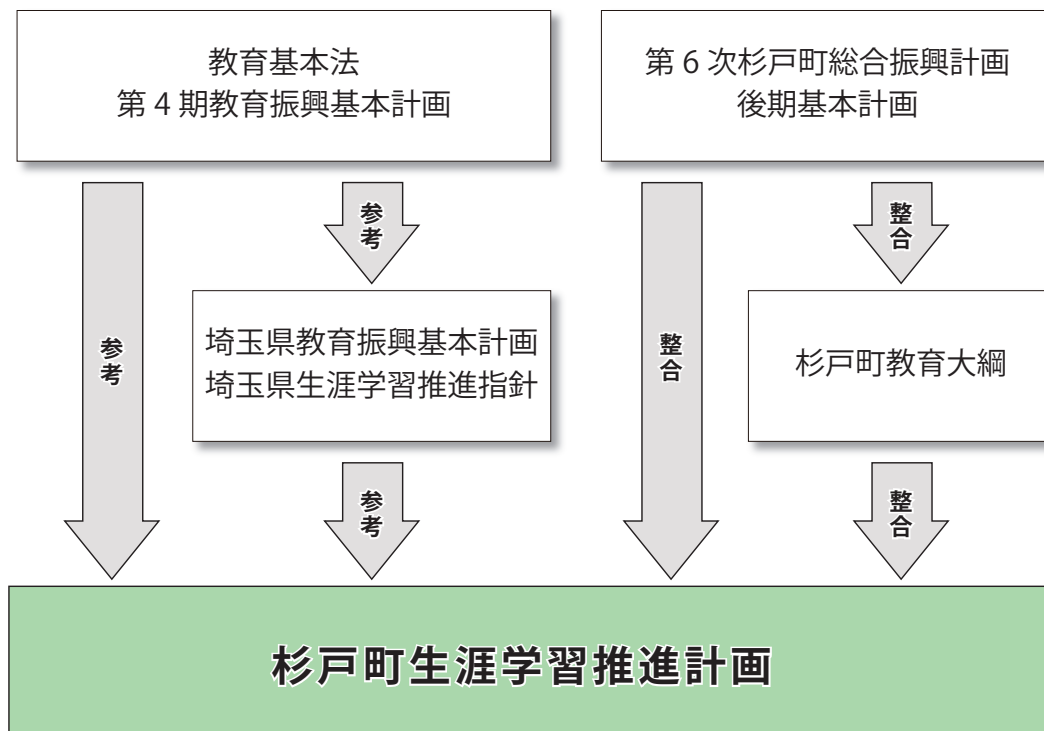
これらの国・県の動向は、杉戸町が生涯学習を推進する上での重要な指針となるとともに、本計画が目指す「生涯学習社会」の実現に向けた推進力を与えるものです。

杉戸町においても、少子高齢化の進行や地域コミュニティの変容といった社会構造の変化が進む中で、町民一人ひとりが年齢や状況に関わらず、学びたい時に学びたいことを選択し、主体的に学習に取り組める環境を整備することが喫緊の課題となっています。本計画は、こうした社会的な背景と杉戸町が直面する状況を踏まえ、今後の生涯学習推進に関する基本的な考え方や、町として重点的に取り組むべき施策の方向性を示す指針として策定するものです。

本計画の策定にあたっては、杉戸町総合振興計画や杉戸町教育大綱といった町の最上位計画や関連計画との整合性を図り、生涯学習がまちづくりの重要な柱の一つとして機能するよう位置づけています。また、令和6年度に実施した「杉戸町生涯学習意識調査」の結果を基

に町民ニーズの把握に努めるとともに、近隣自治体等の生涯学習に関する計画や取組も参考としながら、本町の地域特性に即した、より実効性の高い計画として策定しました。

本計画を通じて、町民誰もが学びを楽しみ、その成果を活かせる「生涯学習社会」の実現を目指してまいります。

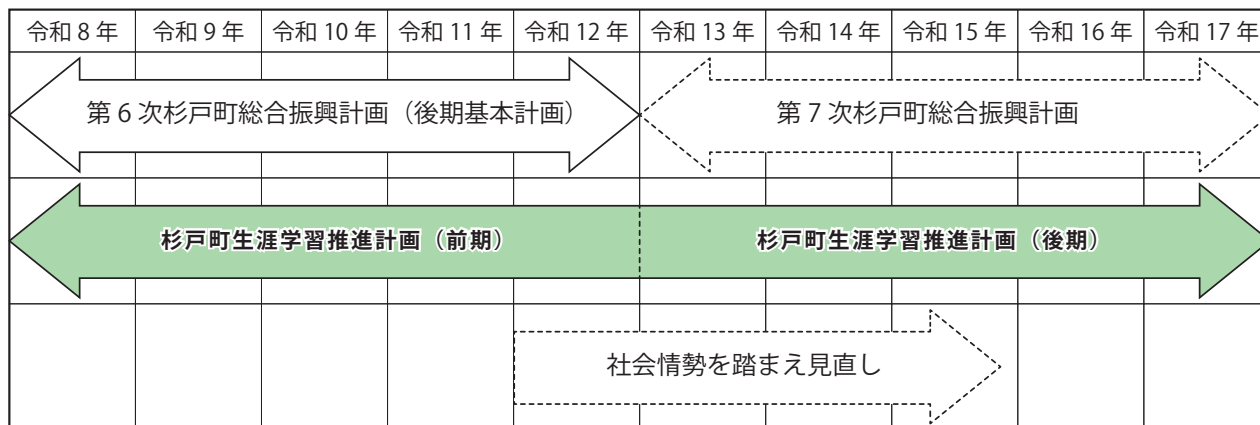


【図1】計画の位置づけ

3. 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度からの10年間（令和17年度まで）とします。

計画の推進にあたっては、この10年間で前期5年間（令和8年度～令和12年度）と後期5年間（令和13年度～令和17年度）に区分します。前期5年間が経過した時点で社会情勢の変化や町民ニーズ、施策の進捗状況等を踏まえた見直しを図り、後期計画に反映させることで、計画の実効性を確保し生涯学習施策を着実に推進します。合わせて計画期間を通じて、定期的に進捗管理と評価を実施し、効果的な計画推進に努めます。



【図2】計画期間と進行管理

💡 生涯学習とは

私たち一人ひとりが、生涯にわたって自らの興味や関心に基づき、主体的に取り組むあらゆる「学び」の活動を指します。

それは、学校や職場における学びだけでなく、個人の生活を豊かにし、自己の可能性を広げるための、あらゆる機会と場における学習を含んでいます。具体的には、以下のようなものが挙げられます。

- 趣味やスポーツ、文化・芸術活動
- ボランティアなどの地域貢献活動
- 資格取得に向けた学習
- 地域課題の解決に向けた活動

本計画における生涯学習は、特定の年齢や経歴にとらわれることなく、誰もが「いつでも、どこでも、だれでも」参加できることを基本とします。

急速に変化する現代社会において、新たな知識や技能を習得し、豊かな人間性を育むことは、個人の生きがいに繋がるだけでなく、地域社会全体の活力の源泉となる、極めて重要な営みです。

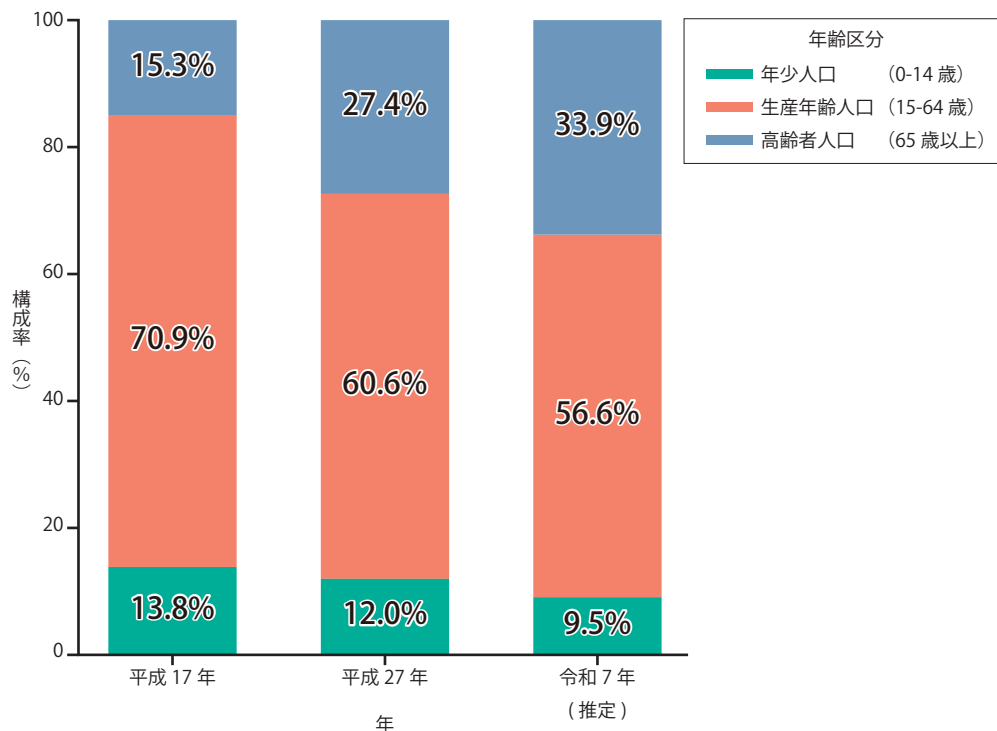
第2部 杉戸町の現状と生涯学習を巡る課題

1. 杉戸町の現状

杉戸町は、埼玉県東部に位置し、豊かな自然環境に恵まれ、古くは日光街道の宿場町として栄えた歴史と文化が息づくまちです。都心へのアクセスも比較的良好であり、農業も重要な産業として位置づけられています。人口は近年4万3千人台で推移しており、減少傾向にあります。近年は少子高齢化が進行しており、特に15歳未満の年少人口は減少傾向にある一方、65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあります。


こうした人口構造の変化は、生涯学習を含む様々な行政サービスにおいて、多様化するニーズへの対応や、世代間の連携の促進といった新たな課題をもたらしています。本町の人口構造の近年の推移は【図3】の通りです。

町内には、生涯学習センター「カルスタすぎと」や図書館、複数の公民館といった公共施設が生涯学習の拠点として整備されており、様々なイベント、町民の自主的な学習活動の場として利用されています。

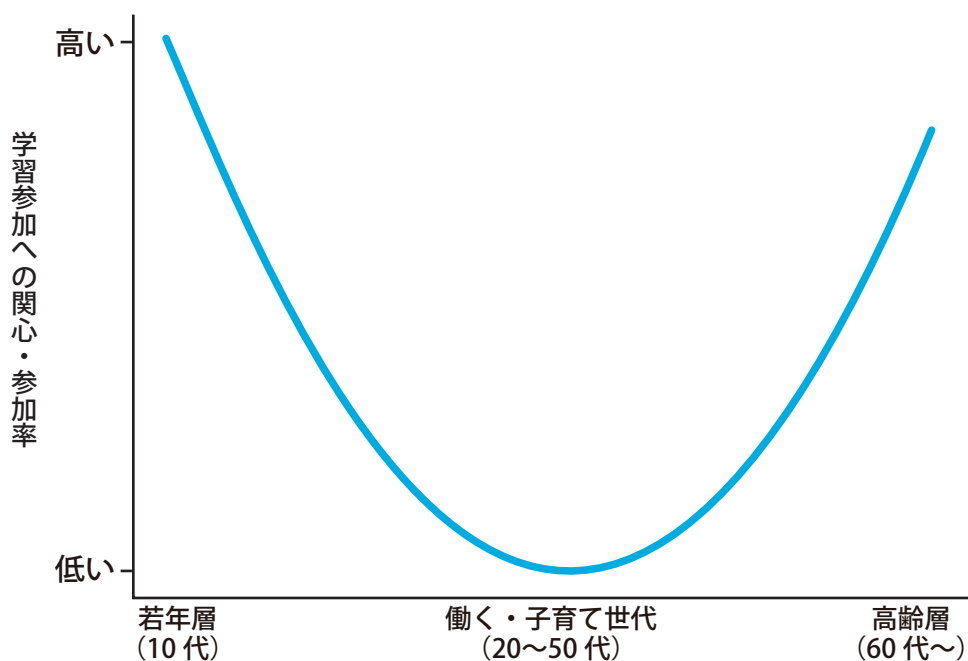


【図3】年齢3区分別人口構成の推移

2. 住民アンケート調査の結果から

 本項で示すアンケート結果の各データは、巻末の資料編「令和6年度 杉戸町生涯学習意識調査 結果報告書」に対応しています。本文中の（設問○参照）は、同報告書の設問番号を示します。

町民の生涯学習活動の現状を町民アンケート結果から見ると、直近1年間に何らかの生涯学習活動を行った人は、10代で約76%と高い一方、30代（約42%）、40代（約30%）、50代（約37%）といった働く世代・子育て世代で活動率が低下する傾向が見られます。高齢者層（60代、70代）では参加率が再び回復する傾向が見られます（設問1参照）。この参加率の傾向をイメージ化したものが【図4】です。



【図4】生涯を通じた学習参加の意向（イメージ図）

生涯学習活動を行う際の形態としては、若年層・働く世代では「書籍を活用した個人学習」や「パソコン・インターネットを活用した個人学習」、そして「大学等への入学」といった形式が多く見られます。一方、60代以上の高齢者層では、「公共施設が行う講座・教室等への参加」や「自主的なグループ・サークルへの参加」が主要な形態となっています（設問2-2参照）。

生涯学習活動を行う理由としては、全ての年代で「趣味や興味を広げたい」が上位に挙げられますが、働く世代では「職業スキルを向上させたい」、高齢者層では「健康や心身の調子を保つため」が特に重要な動機となっています（設問3参照）。

また、生涯学習を始めるきっかけとしては、「新しい趣味やスキルを身につけたい」という内発的な動機に加え、働く世代では「知識や情報のアップデートが必要だと感じた」、高齢者層では「退職後の時間を有効活用したい」といったライフイベントが大きなきっかけとなっています（設問4参照）。

町民が生涯学習に関する情報を得る手段は、若年・働く世代では「インターネット、SNS」が中心である一方、高齢者層では「広報すぎと、回覧板」「新聞等」が主であり、年代による情報入手のチャンネルが大きく異なっています（設問6参照）。これらの世代間の主な特徴をまとめたものが【図5】です。

| 特徴 | 若年層・働く世代 | 高齢者層 |
|---------|---|--|
| 主な活動形態 | <ul style="list-style-type: none"> 一人での学習（PC、書籍など） 大学や専門学校、職場での学習 | <ul style="list-style-type: none"> 町が主催する講座や教室 グループ・サークル活動 |
| 主な学習理由 | <ul style="list-style-type: none"> 職業スキルの向上 新しい趣味やスキルの習得 | <ul style="list-style-type: none"> 健康維持、生きがいづくり 趣味、仲間との交流 |
| 主な情報源 | <ul style="list-style-type: none"> インターネット、SNS | <ul style="list-style-type: none"> 広報すぎと、地域の掲示板・回覧板 |
| 町への主な期待 | <ul style="list-style-type: none"> 設備の充実 インターネット予約の改善 | <ul style="list-style-type: none"> 既存施設のバリアフリー化 地域活動への支援 |

【図5】生涯学習の主な世代間特徴比較

3. 課題の整理

こうした町の現状と町民の学習活動やニーズを踏まえると、生涯学習をさらに推進していく上で、いくつかの主要な課題が見えてきます。

第1に、学習への参加を阻む障壁への対応が挙げられます。アンケート結果によると、生涯学習活動を行っていない理由として、「忙しくて時間がない」が働く世代（20代～60代）で最も多く、高齢者層（70代、80代以上）では「興味がない」、「情報を得る機会がない」も主要な理由となっています。また、「学習機会がない」と感じている人も幅広い年代で存在します（設問5参照）。これらの時間的制約、学習そのものへの関心の低さ、学習情報に接する機会の不足、そして学習機会の不足といった複合的な要因への対策が必要です。

第2に、情報提供の最適化が課題です。町民が生涯学習に関する情報を得る手段は、若年・働く世代では「インターネット、SNS」が中心である一方、高齢者層では「広報すぎと、回覧板」「新聞等」が主であり、年代による情報入手のチャンネルが大きく異なっています（設問6参照）。また、全ての年代で「特に情報を得ていない」と感じる人が一定数存在し、情報が必要な人に適切に届いていない現状があります。これらの多様な情報ニーズと情報チャンネルの特性を踏まえた、効果的な情報提供の仕組みづくりが求められます。

第3に、学習成果の活用促進と機会の創出が課題です。生涯学習で得た知識や技能は、多くの町民が「自分の人生を豊かにする」「健康維持・増進に役立つ」と感じていますが、「ボランティアなど地域活動に活かしている」という回答は相対的に少なく、「活かす機会がない」と感じている人も一定数見られます（設問8参照）。学習で培った力を地域や社会で活かせる、多様で柔軟な機会を提供し、学びと実践の循環を生み出す仕組みづくりが必要です。

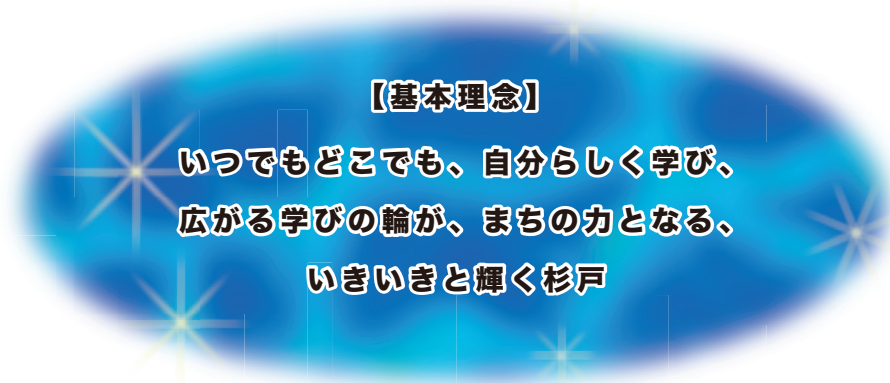
第4に、学びを支える環境（施設・設備・利便性）の向上が求められています。町が今後力を入れるべき点として、町民からは「設備の充実」へのニーズが最も高い要望の一つとして挙げられています。加えて、働く世代からは「インターネットで予約をしやすくする」といったデジタル化・利便性向上への強い期待があり、高齢者層からは「既存施設のバリアフリー化など、だれもが利用しやすい改修」が最優先の要望となっています（設問11参照）。これらの町民の具体的な声に応える、質の高い学習環境整備が課題です。

第3部 計画の基本理念と施策

1. 基本理念

杉戸町は、生涯学習を通じて、町民一人ひとりが自己を磨き、豊かな人生を送り、地域社会の一員としていきいきと輝けるまちを目指します。この理念は、町の最上位計画である「第6次杉戸町総合振興計画」、特に本計画と同じく令和8年度からスタートする同計画の「後期基本計画」が掲げる社会教育・共生に関する未来像「**生涯を通じて学び、郷土とひとに愛着を持てるまち**」の実現に向け、その姿を町民アンケートの結果も踏まえ、より具体的に描くものです。この目指す姿を端的に表すものとして、本計画では以下の基本理念を掲げます。

【基本理念に込める想い】



この基本理念には、次のような想いを込めています。

「いつでもどこでも、自分らしく学び」

本町の生涯学習を取り巻く現状として、町民アンケート調査からは、「時間がない」ことが学びの大きな壁となっている実態や、世代によって求める学習形態や情報源が異なることが明らかになりました。この言葉には、そうした時間的・物理的な制約や情報格差を乗り越え、誰もが自身の興味や関心、ライフスタイルに合わせて、**主体的に学びを選択できる環境を整える**という、町の基本的な姿勢が表されています。また、ここでいう「自分らしく」とは、国籍や文化、障がいの有無等、一人ひとりの多様性を尊重し、誰もが取り残されることのない「共生社会」の実現にもつながる、学びのあり方を目指すものです。（学習機会の充実や環境整備など、後述する基本目標1、2、5、6を具体化する考え方です）

「広がる学びの輪が、まちの力となる」

生涯学習は、個人の知識や技能を高めるだけにとどまりません。学びを通じて生まれた**人と人の「つながり」**は、やがて地域全体へと広がる「学びの輪」となり、**互いに教え合い、支え合う新しい協働**を生み出します。この言葉には、町民一人ひとりの学習成果や経験が、地域活動や課題解決へと活かされることで、地域全体の活力、すなわち「**まちの力**」へと**転換されていく、学びと実践の好循環**を創り出すという想いを込めています。（実践の循環や多様な主体との連携など、後述する基本目標3、4を具体化する考え方です）

「いきいきと輝く杉戸」

学びを通じて、町民一人ひとりが自己実現を果たし、内面から「いきいきと輝く」こと。そして、そうした一人ひとりの自己実現の積み重ねが、地域を支える大きな**原動力**となり、まち全体の持続的な発展へとつながります。

この言葉には、生涯学習が、町民一人ひとりの**ウェルビーイング**の向上と、まち全体の発展を支える**重要な基盤**であるという、私たちが目指す未来像への願いを込めています。

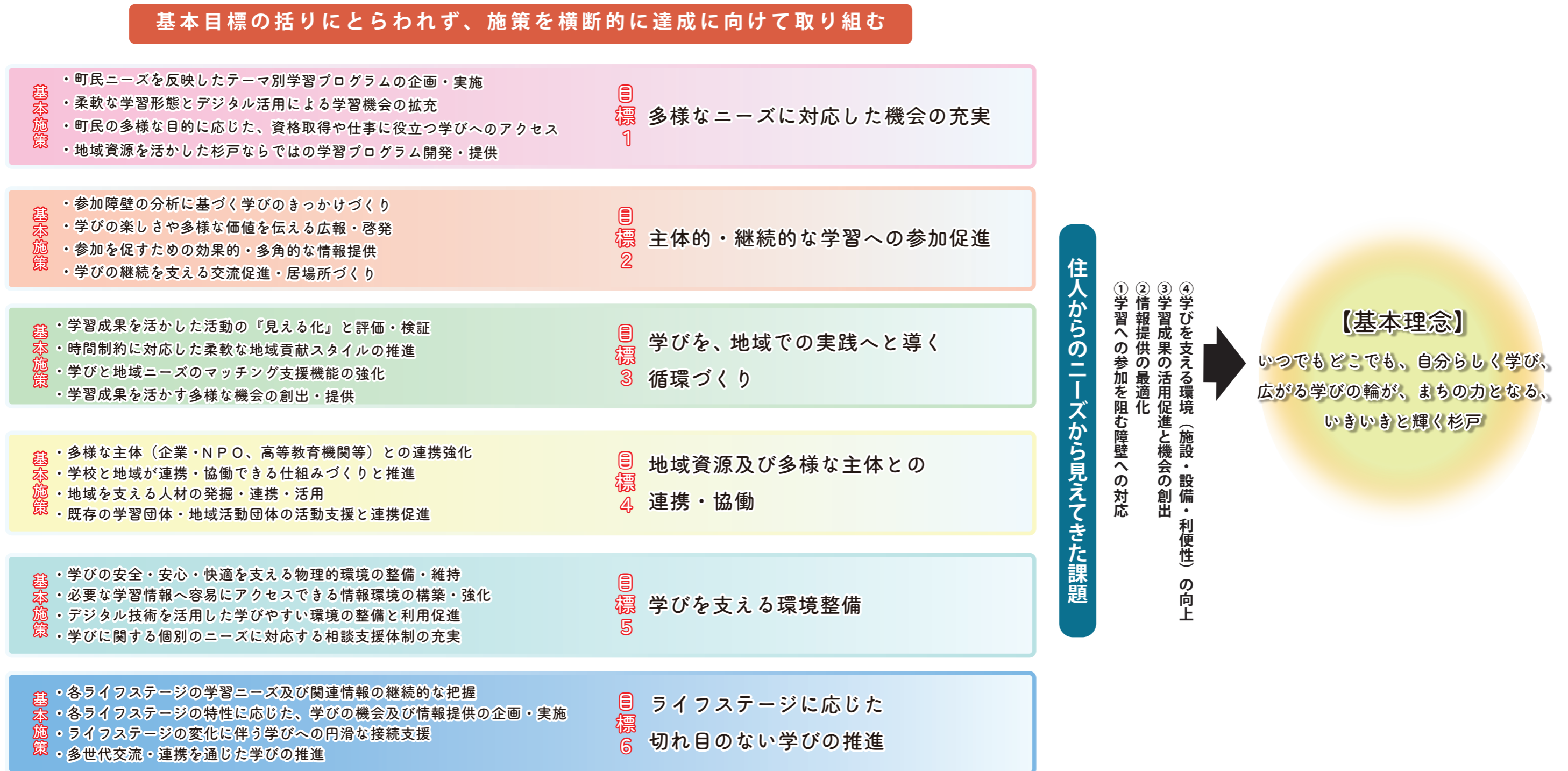
この基本理念は、本計画における全ての施策の根幹となる考え方であり、計画期間を通じて常に立ち返るべき指針となります。



【図6】基本理念の概念図

2. 計画の構造

本計画は、前章で整理した4つの課題を克服し、基本理念を実現するため、6つの基本目標を立て、その下に具体的な施策を展開する構造となっています。その全体像を以下の【図7】に示します。



【図7】計画の構造

3. 4つの課題

本計画が取り組むべき課題として、第2部で整理した以下の4つの課題を改めて掲げます。

課題1：学習への参加を阻む障壁への対応

課題2：情報提供の最適化

課題3：学習成果の活用促進と機会の創出

課題4：学びを支える環境（施設・設備・利便性）の向上

4. 6つの基本目標

上記の4つの課題を解決し、基本理念を実現するために、本計画では以下の6つの基本目標を設定します。

基本目標1：多様な学習ニーズに対応した機会の充実

基本目標2：主体的・継続的な学習への参加促進

基本目標3：学びを、地域での実践へと導く循環づくり

基本目標4：地域資源及び多様な主体との連携・協働

基本目標5：学びを支える環境整備

基本目標6：ライフステージに応じた切れ目のない学びの推進

5. 施策の体系

6つの基本目標を達成するため、以下の施策に体系的に取り組みます。

基本目標1：多様な学習ニーズに対応した機会の充実

変化の激しい現代社会において、町民の学習ニーズは多様化しています。個人の興味関心やライフステージはもちろん、社会の変化に対応するためのスキル習得、地域課題の解決に貢献したいという意欲など、その内容は多岐にわたります。また、町民アンケート結果からも、健康、安全、資格取得、子育て、地域の歴史文化等、幅広いテーマへの関心が高いことが明らかになっています。

この基本目標は、町民一人ひとりが「自分らしく学ぶ」ための第一歩であり、基本理念に掲げる「広がる学びの輪」が生まれるための土台となるものです。こうした多様な学習ニーズに応えるため、提供する学習機会の内容、形式、レベルの選択肢を広げ、誰もが「学びたいものが見つかる」状態を目指します。

具体的な取組としては、健康増進や防災といった高い関心テーマに関する講座の拡充、町民の多様な目的に応じた資格取得等に繋がる学びの機会へのアクセスを促進すること、地域の特色を活かした学習機会の創出、オンライン学習の導入による学びの形式の多様化等を推進し、学びへの入り口を広げます。

これらの多様な「学びの入り口」を設けることは、町民一人ひとりが自分にとって最適な学びを選択できる環境を整えるだけでなく、その先にある新たな「つながり」や「まちの力」へと発展していくための重要な基盤づくりです（基本目標2とも連携）。

この目標を達成するため、以下の施策に取り組みます。

施策1-1：町民ニーズを反映したテーマ別学習プログラムの企画・実施

・ねらい

町民アンケート調査で世代を問わず関心が高い「**防災・防犯**」や「**健康・医療・福祉**」といったテーマを中心に、地域の専門家や関係機関等と連携しながら、**幅広い年代のニーズに応える多様な学習プログラムを企画し、実施します**。社会の変化に対応した新しいテーマのプログラムも検討します。

・（関連する課題）

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応
 （特に「興味がない」、「学習機会がない」という障壁への対応）

・（根拠となる町民ニーズ）

設問10（今後学習したい内容）の多様なテーマへの関心

・（関連する基本目標）

基本目標4（地域資源及び多様な主体との連携・協働）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|---------------------------|
| 町民の心身の健康づくりを支援するため、世代を問わず気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション機会を提供・充実します。 （例：ウォーキング、軽スポーツ教室、パラスポーツ体験会、ヨガ教室、介護予防運動講座等） | 健康支援課 高齢介護課 社会教育課 等 |
| 防災講座や消費生活講座など、町民が自らの生命や財産を守り、 日々の暮らしをより安全・安心なものにするための知識を学ぶ学習機会 の充実を図ります。 | 社会教育課 等 |
| 町内の史跡を巡る講座や、豊かな自然環境を活かした体験プログラムなど、 地域の歴史・文化・自然を学ぶプログラム を企画・実施します。 （例：杉戸町文化財講習会） | 社会教育課 等 |
| 子育て中の町民が安心して学び、 親同士や子ども同士が交流し、つながりを深めることができる機会 を創出します。（例：子育て講座、出前児童館等） | 子育て支援課 等 |

施策1-2：柔軟な学習形態とデジタル活用による学習機会の拡充

・ねらい

町民アンケートで最大の参加障壁として示された、働く世代等における「**時間がない**」という課題に正面から向き合い、「平日昼間は参加できない」といった町民の切実な声に応えるため、**短時間講座や休日開催、オンライン講座の活用など、時間や場所の制約を軽減する柔軟な学習機会を拡充します。**また、外部の質の高い学習資源へのアクセス支援や、公共施設等におけるデジタル学習環境の整備を進めることにより、機会の拡充を図ります。

・(関連する課題)

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

課題④ 学びを支える環境（施設・設備・利便性）の向上

・(根拠となる町民ニーズ)

設問 5 (参加しない理由：時間がない)

設問 2-2 (希望する学習形態：インターネット等)

設問 11 (町への優先度：インターネット予約)

(関連する基本目標)

基本目標 5 (学びを支える環境整備)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|--------------|
| <p>平日夜間や週末に開催する短時間セミナーの充実を図ります。 (例：すぎと町民大学、夜間ストレッチ教室等)</p> | <p>各課</p> |
| <p>自宅等から参加できるオンライン講座の実施を支援します。 (例：埼玉県や国の提供する無料学習サイト、民間オンライン学習プラットフォーム等)</p> | <p>各課</p> |
| <p>生涯学習センターをモデル拠点としてデジタル学習環境の整備を進め、その活用を公民館等へも広げていく取組を支援します。</p> | <p>社会教育課</p> |

施策1-3：町民の多様な目的に応じた、資格取得や仕事に役立つ学びへのアクセス支援

・ねらい

町民、特に働く世代の「**資格取得等や仕事に役立つ学び**」へのニーズに応えるため、町が直接プログラムを提供するだけでなく、外部の専門機関や民間等が提供する関連情報の集約・提供や、**学びの機会への円滑な接続を支援します**。この取組を通じて、取得した資格やスキルが、**町内での新たな活躍の場や価値の創出につながるような好循環**を目指します。

・（関連する課題）

課題③ 学習成果の活用促進と機会の創出

・（根拠となる町民ニーズ）

設問7（知りたい情報：資格に関する情報）

設問8（学習成果の活用：仕事）

・（関連する基本目標）

基本目標4（地域資源及び多様な主体との連携・協働）

基本目標5（学びを支える環境整備）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|---------|
| 資格取得支援機関やハローワーク等との連携による 学習情報・支援情報の提供と相互周知 を図ります。（例：合同就職説明会での講座案内、町ウェブサイトでの特集ページ設置等） | 社会教育課 等 |
| 仕事に役立つデジタルスキル （PC、データ活用等）に関する学習機会の提供を支援します。 | 社会教育課 |
| 外部の キャリア形成支援に関するオンライン学習資源や講座情報の集約・周知 の充実を図ります。 | 社会教育課 |

施策1-4：地域資源を活かした杉戸ならではの学習プログラム開発・提供

・ねらい

杉戸町の豊かな自然、歴史、文化、産業、人材等の地域資源を学習素材として活用し、**この町ならではの魅力的な学習プログラムを、地域住民や関係団体等との連携・協働により企画・提供します。**これらの活動を通じて、**町民の郷土への愛着を育み、将来的なまちづくりへの参加意欲の醸成につなげます。**

・(関連する課題)

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応
(特に「興味がない」という心理的な障壁への対応)

・(根拠となる町民ニーズ)

設問10 (今後学習したい内容：地域の歴史・文化・自然、まちづくり)

・(関連する基本目標)

基本目標4 (地域資源及び多様な主体との連携・協働)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|---------|
| 杉戸町の豊かな自然環境を活かした スポーツ・レクリエーション活動 の機会の 充実を図ります 。(例：県指定天然記念物周辺を活用したウォーキング、自然観察オリエンテーリング等) | 社会教育課 |
| 町内の 文化財や史跡を巡る歴史講座 や体験学習の機会を 企画・実施します 。(例：杉戸町文化財講演会) | 社会教育課 |
| 地元の 農産物や特産品 に親しむ、 稲作体験や収穫体験 の機会を推進します。 | 産業振興課 等 |
| 地域で活躍する 職人・専門家・アーティスト等の“人財” との 連携を深め、町民の学びのために活躍いただく機会の創出を支援 します。(例：子ども大学すぎとにおける杉戸農業高等学校とのコラボ授業) | 社会教育課 |
| 町民の 自発的な提案 を 起点 とした新たな価値創造プロジェクトの実現を後押しする環境を整える。(例：「すぎと町民大学」卒業生による企画等) | 社会教育課 |

基本目標2：主体的・継続的な学習への参加促進

生涯学習推進における重要な課題は、学習に関心があっても様々な理由で活動を行えていない町民が多く存在することです。町民アンケート結果からは、生涯学習活動を行っていない理由として「忙しくて時間がない」が最も多く挙げられており、特に働く世代で最大の障壁となっています（169件の回答）。これに加え、「興味がない」（98件）、「生涯学習に関する情報を得る機会がない」（90件）、「学習機会がない」（69件）といった理由も多く挙げられています。**この基本目標は、こうした多様な障壁を一つひとつ取り除き、基本理念に掲げる「いつでもどこでも、自分らしく学ぶ」を実現するための重要な取組です。**

具体的な取組としては、時間や場所にとらわれない柔軟な学習形式（オンライン、短時間講座等）の提供を検討し、忙しい世代の参加を促します。また、町民の興味を引き出す魅力的なプログラムを企画・開発し、学習の楽しさを伝える広報を強化することで、「興味がない」と感じている層へのアプローチを図ります。さらに、学習機会や関連情報へのアクセスを容易にするための情報提供の改善（基本目標5とも連携）や、学びの第一歩を踏み出すための相談・支援体制の整備等を通じて、誰もが気軽に、そして安心して学習を始められる環境を整備します。**これらの取組により、一度きりの参加に終わらず、生涯にわたり「自分らしく学び続ける町民」を増やすことが、「広がる学びの輪」を形成し、「まちの力」を育む礎となります。**

この目標を達成するため、以下の施策に取り組みます。

施策2-1：参加障壁の分析に基づく学びのきっかけづくり

・ねらい

町民アンケート結果等で明らかになった、年代別の参加障壁（時間、興味、情報、機会等）をさらに詳細に分析し、それぞれの障壁に対応した**学びへの「きっかけ」となるような、短時間体験プログラムや魅力的な入門講座等**を、多様な主体との連携により企画・実施またはその実施を支援します。その際、町民一人ひとりが抱える身体的な事情や、人とのつながりを大切にす心理にも寄り添い、**誰もが安心して参加できる「きっかけ」づくり**を目指します。

・（関連する課題）

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

・（根拠となる町民ニーズ）

設問 1（生涯学習活動の状況）

設問 5（生涯学習活動を行っていない理由及び自由記述）

設問 4（生涯学習を始めたきっかけ及び自由記述）

・（関連する基本目標）

基本目標 1（多様な学習ニーズに対応した機会の充実）

基本目標 4（地域資源及び多様な主体との連携・協働）

基本目標 6（ライフステージに応じた切れ目のない学びの推進）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|----------------------------|
| 「はじめての〇〇」をテーマにした初心者向け・体験型講座を企画・実施します。（例：手話体験講座、町民パソコン講座、親子 de スポフェス等） | 福祉課 社会教育課 子育て支援課 |
| 参加無料や安価な生涯学習体験イベントの企画・実施を推進します。 | 社会教育課 |
| 特定の世代や層に向けた学びの提案を行います。（例：子育て講座、ママパパ講座、認知症予防教室等） | 子育て支援課 健康支援課 高齢介護課 等 |

施策2-2：学びの楽しさや多様な価値を伝える広報・啓発

・ねらい

現在、生涯学習に特段の関心がない、または学ぶことのメリットを十分に認識していない町民に対して、**学びが人生にもたらす楽しさや、健康づくり、仲間づくり、地域貢献等に繋がる多様な価値や魅力**を効果的に伝え、**学びへの新たな興味・関心を喚起する広報・啓発活動**を、様々な媒体（広報紙、ウェブサイト、SNS、イベント等）を通じて積極的に行います。

・（関連する課題）

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

・（根拠となる町民ニーズ）

設問5（参加しない理由：興味がない）

設問6（生涯学習に関する情報の入手先）

設問8（生涯学習活動を通じて得た成果）

・（関連する基本目標）

基本目標5（学びを支える環境整備）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|----------------|
| ウェブサイト等を活用した、 町民学習者のインタビュー記事や、学びの成果活用事例 の連載を支援します。（例：文化活動の達人、健康維持のためにスポーツを続ける高齢者等） | 社会教育課 等 |
| 生涯学習関連イベントにおいて、 体験談発表や学びの魅力発信コーナー の設置を促します。 | 社会教育課 |
| SNSや動画を活用した、学びの楽しさや価値を伝えるタイムリーなコンテンツ の制作・発信の充実を図ります。（例：杉戸町社会教育課 町史・文化財担当 Instagram） | 社会教育課 秘書広報課 |
| 既存の表彰制度（例：「杉戸町文化大賞」）の活用や見直しを検討し、 優れた学習成果を社会的に評価・発信する機会 の創出に努めます。 | 社会教育課 |

施策2-3：参加を促すための効果的・多角的な情報提供

・ねらい

「学んでみたい」「何か始めてみたい」といった意欲を持つ町民や、具体的な学習機会や情報を探している町民が必要とする、講座、サークル、イベント等に関する具体的かつ実践的な情報を、年代やライフスタイルに合わせて、いつでも、どこからでも入手できるよう、**情報提供の方法を改善・拡充します。**情報媒体のデジタル化を進めるとともに、地域内の回覧板やロコミといったアナログな情報経路も活用し、**学びたいという意欲を具体的な行動に繋げるための情報提供体制を強化します。**

・(関連する課題)

課題② 情報提供の最適化

・(根拠となる町民ニーズ)

設問5 (参加しない理由：情報がない)

設問6 (生涯学習に関する情報の入手先)

設問7 (知りたい情報)

・(関連する基本目標)

基本目標5 (学びを支える環境整備)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|---------|
| 生涯学習ポータルサイトを構築・運営し、文化・スポーツ等のサークル情報を含め、町内の学習情報を集約することで、情報の一元化と検索機能の強化を図ります。 | 社会教育課 等 |
| 生涯学習センターを情報発信の拠点とし、公民館・図書館・地域の掲示板等と連携して、デジタルに不慣れな方にも情報が届く広報物(チラシ、ポスター等)の作成・配架の充実を図ります。 | 社会教育課 等 |
| 若年層・働く世代に向けたSNSや動画配信、高齢者層に向けたLINE公式アカウント等を活用したプッシュ型の情報発信を推進します。 | 社会教育課 等 |

施策2-4：学びの継続を支える交流促進・居場所づくり

・ねらい

一度学習活動を始めた人が、**孤立せず楽しく学びを継続できるよう**、学習者同士や地域住民との交流機会を提供したり、**安心して活動できる「居場所」としての公民館や地域施設等の環境整備を推進します**。学習サークル活動への参加支援や、学びを通じた仲間づくりを促進します。

・（関連する課題）

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

（学びの継続を阻む「孤立」や「交友関係の不足」への対応）

・（根拠となる町民ニーズ）

設問 2-2 （希望する学習形態：サークル活動）

設問 8 （生涯学習活動を通じて得た成果：交友関係）

・（関連する基本目標）

基本目標 4 （地域資源及び多様な主体との連携・協働）

基本目標 5 （学びを支える環境整備）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|----------------|
| <p>同じ活動分野の学習サークル等が集う合同発表会や交流イベントを開催します。（例：公民館ごとの合同文化祭、種目別のスポーツ交流大会等）【施策3-1と連携】</p> | <p>社会教育課</p> |
| <p>町民の孤立感の解消や新たな仲間づくりにつながる、気軽に立ち寄れる交流スペース（サードプレイス）の設置・運営の充実を図ります。</p> | <p>社会教育課 等</p> |
| <p>異なる学習分野や世代の学習者が一堂に会し、新たな発見や交流を生む異分野交流イベントを推進します。（例：文化とスポーツの合同フェスティバル、多世代交流ワークショップ等）</p> | <p>社会教育課</p> |
| <p>学習サークルや活動の様子を伝えるショート動画等のコンテンツを作成・発信し、参加前の不安を軽減するとともに、新たな参加を支援します。</p> | <p>社会教育課 等</p> |

基本目標3：学びを、地域での実践へと導く循環づくり

この基本目標は、基本理念に掲げる「広がる学びの輪が、まちの力となる」という姿を具体化する、計画の中核をなすものです。生涯学習で得られた知識や技能は、町民一人ひとりの人生を豊かにし、健康を維持・増進するなど、主に個人的な場面で活かされていることが町民アンケート結果からも明らかになっています。

しかし、こうした個人的な充足に加え、学びの成果が地域や社会における様々な活動にも活かされ、町全体の活力向上に繋がることを期待されます。町民アンケート結果では、地域活動や社会貢献への参加意向を持つ町民がいる一方で、「活かす機会がない」と感じている人が一定数おり（39件の回答）、また「参加したいが時間的制約がある」ことが活動参加の最大の障壁となっている現状があります（158件の回答）。

具体的な取組としては、学びたいテーマと地域のニーズを結びつけ、学習成果を地域貢献に繋げるための多様な「場」や「機会」を創出・紹介します。例えば、子育て支援、高齢者の健康づくりサポート、地域のイベント運営、防災活動、環境保全といった分野（町民アンケートで関心の高い活用分野）等での活躍の機会を提案・支援します。また、「時間がない」という制約に対応するため、短時間参加や自身のペースで関わられるような柔軟なボランティア・地域活動の形態を検討・促進します。学びたい内容と活用機会のマッチングを支援する仕組みづくり（基本目標5とも連携）や、地域で活躍する学習者の情報を発信し、新たな学びや活動への参加を促すこと等も重要な取組です。**これらの取組を通じて、町民一人ひとりの学びが地域への貢献へとつながる循環を生み出し、理念が目指す「いきいきと輝く杉戸」の実現を力強く推進します**（基本目標4、5とも連携）。

この目標を達成するため、以下の施策に取り組みます。

施策3-1：学習成果を活かす多様な機会の創出・提供

・ねらい

町民が学んだ知識や技能を地域や社会で活かせるよう、「地域のイベントでの発表」「専門性を活かした講座の開催」「地域課題解決プロジェクトへの参加等」といった、多様な貢献・活躍の機会を町が企画したり、地域の各種団体等と連携して創出・紹介したりします。

・（関連する課題）

課題③ 学習成果の活用促進と機会の創出

・（根拠となる町民ニーズ）

設問8（学習成果の活用状況：「活かす機会がない」）

設問9（活かしてみたい活動）

・（関連する基本目標）

基本目標1（多様な学習ニーズに対応した機会の充実）

基本目標4（地域資源及び多様な主体との連携・協働）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|---------|
| 学習成果発表会・展示会 の開催を推進します。 （例：公民館まつり、生涯学習センターまつり、スポーツ活動のデモンストラーションや体験会等） | 社会教育課 |
| 学びを活かした地域向け講座 の企画・実施の充実を図ります。 （例：まなびっチャすぎと塾） | 社会教育課 |
| 地域貢献・ボランティア活動プロジェクトへの学習者の参加 を促進します。（例：すぎと町民大学卒業生による活動支援） | 社会教育課 等 |

施策3-2：学びと地域ニーズのマッチング支援機能の強化

・ねらい

町民が持つ「**学びたい内容**」や「**活かせる技能**」と、地域が抱える「**課題**」や「**人手・スキルが必要な場面**」を結びつけるための、相談窓口の設置、人材バンクの整備、オンラインプラットフォームの活用等、**具体的なマッチング機能を強化します。**

・（関連する課題）

課題③ 学習成果の活用促進と機会の創出

・（根拠となる町民ニーズ）

設問9（活かしてみたい活動）

設問7（知りたい情報：地域活動・ボランティア情報）

・（関連する基本目標）

基本目標4（地域資源及び多様な主体との連携・協働）

基本目標5（学びを支える環境整備）

基本目標6（ライフステージに応じた切れ目のない学びの推進）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|---------|
| 生涯学習人材・活動マッチングサイトを構築し、その運営の充実を図ります。（例：杉戸町リーダーバンクの機能強化） | 社会教育課 |
| 地域からのボランティア募集情報などを集約・発信する「 地域貢献活動情報ポータル 」の構築を推進します。 | 社会教育課 等 |
| 専門スキルや経験を活かしたい町民と地域ニーズとのコーディネートが、相談対応等を通じて行われるよう促します。 | 社会教育課 |

施策3-3：時間制約に対応した柔軟な地域貢献スタイルの推進

・ねらい

地域貢献や社会活動への参加意向はあるものの、「**時間がない**」ことを最大の障壁と感じている**町民**が参加しやすいよう、短時間、単発プロジェクト、テレワーク可能等といった、**多様で柔軟な貢献スタイルを地域全体に推奨し、そのような機会を創出・紹介します。**

・（関連する課題）

課題③ 学習成果の活用促進と機会の創出

・（根拠となる町民ニーズ）

設問9（活かしてみたい活動：時間的制約）

・（関連する基本目標）

基本目標2（主体的・継続的な学習への参加促進）

基本目標4（地域資源及び多様な主体との連携・協働）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|---------|
| 短時間・オンライン等、 多様なスタイルでの貢献活動 に関する調査研究・情報収集を推進します。 | 社会教育課 等 |
| 町民や地域団体に向けて、短時間・単発といった 多様な地域貢献の形 に関する情報提供や、参加に向けた周知啓発を共同で進めます。 | 社会教育課 等 |

施策3-4：学習成果を活かした活動の「見える化」と評価・顕彰

・ねらい

町民が学びを地域で活かしている事例を発掘し、広報紙やウェブサイト、イベント等を通じて広く紹介することで、**活動の価値を「見える化」し、他の町民の学びや社会参加への意欲を刺激します。**また、顕著な活動を行った個人や団体を評価・顕彰することも検討します。

・(関連する課題)

課題② 情報提供の最適化

・(根拠となる町民ニーズ)

設問8 (学習成果の活用状況)

・(関連する基本目標)

基本目標2 (主体的・継続的な学習への参加促進)

基本目標5 (学びを支える環境整備)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|---------|
| 学びの成果活用事例の収集と多角的な情報発信を、広報紙やウェブサイト等を通じて共同で進めます。【施策2-2と連携】 | 社会教育課 等 |
| 学習成果の発表・報告といった、 活動成果を披露する機会 の充実を図ります。【施策3-1と連携】 | 社会教育課 |
| 生涯学習を通じた地域貢献活動に対する 評価・顕彰制度の構築 を目指します。(文化、スポーツ、地域活動など分野を問わず対象とする) 【施策2-2と連携】 | 社会教育課 |

基本目標4：地域資源及び多様な主体との連携・協働

この基本目標は、町民の学びを公民館等の特定の施設内だけで完結させるのではなく、地域社会全体を一つの大きな学びのフィールドと捉え、多様な力と連携することで「広がる学びの輪」をより大きく、力強くしていくためのものです。生涯学習を推進していく上で、杉戸町が持つ豊かな地域資源を最大限に活かすことは、学びの質を高め、地域への愛着を育む上で不可欠です。

ここでいう地域資源とは、美しい自然景観、歴史・文化遺産、特産品といった有形のものだけでなく、地域で活動する人々、NPO、企業、教育機関（学校）、各種団体、そして町民の持つ知恵や技能といった無形のものも含まれます。また、学びの機会を提供する主体は、町だけでなく、民間事業者、地域団体、個人等多様です。この基本目標では、これらの多様な地域資源と、町内外の多様な主体との連携・協働を強化することで、**杉戸町ならではの魅力ある学習機会を創出し、生涯学習を地域社会と一体となって推進することを目指します。**

具体的な取組としては、地域の人材を講師やサポーターとして積極的に登用すること、学校と地域が円滑に連携・協働できる仕組みづくりや、学びの機会創出に向けた相互の働きかけを促進すること、NPOや民間事業者と協働して専門性の高い講座や資格取得等に繋がる学びの機会を提供する仕組みを構築すること（基本目標1とも連携）、既存の学習サークルや地域活動団体の活動を支援し、相互の連携を促すこと（町民アンケートでニーズの高いサークル情報の提供強化等）が挙げられます。**これらの取組は、多様な主体がそれぞれの役割を担いながら生涯学習を推進する「協働のまちづくり」を実現し、それ自体が「まちの力」の源泉となることを目指します**（基本目標1、3、5とも連携）。

この目標を達成するため、以下の施策に取り組みます。

施策4-1：多様な主体（企業、NPO、高等教育機関等）との連携強化

・ねらい

企業の持つ専門知識や技術、NPOの持つ課題解決ノウハウ、大学等の高等教育機関の高度な学び等、**町だけでは提供が難しい多様な学習ニーズに対応するため、これらの町内外の多様な主体との連携を強化し、協働による学習機会の創出や環境整備を進めます。**

・（関連する課題）

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

・（根拠となる町民ニーズ）

設問10（多様な学習テーマへの関心）

設問7（知りたい情報：資格取得、民間施設の講座）

設問3（職業スキルを向上させたいという学習理由）

・（関連する基本目標）

基本目標1（多様な学習ニーズに対応した機会の充実）

基本目標5（学びを支える環境整備）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|---------|
| 企業やNPO等と連携した、 社会課題や現代的テーマに関する協働学習プログラム の企画・実施を推進します。（例：SDGsに関するワークショップ、デジタル活用講座等） | 社会教育課 等 |
| 高等教育機関の公開講座やリカレント教育プログラムに関する情報提供 を行うほか、必要に応じて 受講支援にも繋がるよう働きかけます。 | 社会教育課 |
| プロスポーツチーム等との連携 による、見学・体験プログラムの企画・実施を支援します。（例：スポーツ教室、選手との交流イベント等） | 社会教育課 等 |

施策4-2：学校と地域が連携・協働できる仕組みづくりと推進

・ねらい

未来を担う子どもたちの育成や、地域全体の教育力向上に繋げるため、**学校と地域が相互に連携・協働**できる体制や仕組みを構築し、推進します。**地域住民が学校の教育活動を支援**したり、**学校が地域の教育資源を活用**したり等、学校と地域双方にとってメリットのある協働を促進します。

・(関連する課題)

課題③ 学習成果の活用促進と機会の創出

課題④ 学びを支える環境（施設・設備・利便性）の向上

・(根拠となる町民ニーズ)

設問10（子育て・家庭教育、青少年育成への関心）

設問11（学校施設の活用への期待）

・(関連する基本目標)

基本目標1（多様な学習ニーズに対応した機会の充実）

基本目標6（ライフステージに応じた切れ目のない学びの推進）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|-------|
| 放課後子供教室事業を推進・拡充します。 | 社会教育課 |
| 地域における生涯学習・スポーツ活動の場として、 学校施設の地域への開放 を促進し、その活用を支援します。 | 社会教育課 |

施策4-3：地域を支える人材の発掘・連携・活用

・ねらい

地域における豊かな知識や経験、優れた技能を持つ町民という”人財”を、生涯学習の重要な担い手と考え、講師、サポーター、地域活動のリーダー等として活躍してもらうための発掘・連携・活躍の機会提供に取り組みます。人材育成講座の企画や、人材情報の収集・提供、マッチング支援等を行います。

・(関連する課題)

課題③ 学習成果の活用促進と機会の創出

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

・(根拠となる町民ニーズ)

設問10 (今後学習したい内容：まちづくり等、地域への関心)

・(関連する基本目標)

基本目標1 (多様な学習ニーズに対応した機会の充実)

基本目標3 (学びを、地域での実践へと導く循環づくり)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|-------|
| 生涯学習講師・地域活動サポーターの養成と登録・活用を行います。 (例：まなびっチャすぎと塾、杉戸町リーダーバンク) | 社会教育課 |
| 地域課題解決に向けたリーダー育成プログラムを実施します。 (例：すぎと町民大学) | 社会教育課 |
| 生涯学習人材に関する情報収集とマッチング支援の充実を図ります。 | 社会教育課 |

施策4-4：既存の学習団体・地域活動団体の活動支援と連携促進

・ねらい

生涯学習活動や地域活動の重要な担い手である既存の学習サークルや地域活動団体に対し、**活動の継続や発展に必要な情報提供、活動場所の確保支援、専門家とのマッチング等の支援**を行います。また、団体間の情報交換や合同での企画実施等を促し、**地域における学びと活動のネットワーク強化**を図ります。

・(関連する課題)

課題② 情報提供の最適化

課題③ 学習成果の活用促進と機会の創出

・(根拠となる町民ニーズ)

設問 2-2 (希望する学習形態：サークル活動)

設問 7 (知りたい情報：サークル情報)

・(関連する基本目標)

基本目標 2 (主体的・継続的な学習への参加促進)

基本目標 3 (学びを、地域での実践へと導く循環づくり)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|-------|
| 学習サークル・団体の活動情報の収集・発信を、ポータルサイト等を活用して推進します。 | 社会教育課 |
| サークル・団体間の交流や連携の機会の創出を支援します。 【施策2-4と連携】 | 社会教育課 |
| 公民館等を拠点とした団体活動への相談対応や、活動場所の優先的な確保支援を行います。 | 社会教育課 |

基本目標5：学びを支える環境整備

この基本目標は、他の全ての目標の活動を根底から支える基盤となるものであり、町民一人ひとりが「いつでもどこでも、自分らしく学ぶ」ことを可能にするための、具体的な環境づくりを担います。町民が、学びたい時にいつでもどこでも自分らしく、主体的に学び、そして安心して快適に活動できるよう、学びを支える環境を整備することが不可欠です。この基本目標では、生涯にわたる町民の多様な学びを支える基盤として、施設、情報、デジタル、相談支援といった様々な側面の環境整備を総合的に推進することを目指します。

具体的な取組としては、町民アンケート結果で優先度が高い取組として挙げられた、**施設のバリアフリー化等利用しやすい改修や、ICT等設備の充実**を計画的に進め、安全・快適に学べる物理的環境を整備します。また、「情報が無い」「生涯学習に関する情報を得る機会がない」といった障壁を解消するため、町民にとって必要な学習機会や関連情報について、**世代や状況に応じた多様な手段で、一人ひとりに届ける情報提供体制を強化**します（基本目標2とも連携）。

さらに、デジタル学習の利用促進や、**インターネットでの施設予約の利便性向上**等、デジタル環境の整備を進め、「いつでもどこでも」学べる環境を拡充します。学びたいことの見つけ方、利用できる制度、活動の始め方、成果の活かし方等に関する相談に、**気軽に専門的な助言を受けられる相談支援体制の構築**も重要な取組です。これらの多角的な環境整備を通じて、町民の学びへのハードルを下げ、誰もが生涯学習の主役となれる土壌を育むことが、「いきいきと輝く杉戸」の実現につながります（基本目標1、2、3とも連携）。

この目標を達成するため、以下の施策に取り組みます。

施策5-1：学びの安全・安心・快適を支える物理的環境の整備・維持

・ねらい

町民が安心して快適に学習活動に取り組めるよう、公民館やカルスタすぎと等の各社会教育施設について、**施設の安全性を常に確保し、誰もが利用しやすいバリアフリーな状態を維持・向上させる**等、日常的な維持管理を徹底するとともに、利用状況や施設の状況に応じた計画的な修繕や機能向上を進めます。**学びの場としての魅力と機能向上を図ります。**

・（関連する課題）

課題④ 学びを支える環境（施設・設備・利便性）の向上

・（根拠となる町民ニーズ）

設問Ⅱ（町への優先度：施設の改修やICT機器等の整備）

・（関連する基本目標）

基本目標2（主体的・継続的な学習への参加促進）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|-------|
| 公民館等の社会教育施設及び社会体育施設（エコ・スポいずみ）について、計画的な点検・修繕・改修を実施します。 | 社会教育課 |
| 施設の安全確保と衛生管理を徹底します。 | 社会教育課 |
| 利用ニーズや時代の変化に対応した施設環境の整備を進めます。 | 社会教育課 |

施策5-2：必要な学習情報へ容易にアクセスできる情報環境の構築・強化

・ねらい

町民が学びたいと思った時に、必要な学習機会（講座、サークル、イベント等）に関する情報や、**学習に役立つ情報（外部機関の情報、関連書籍等）に、いつでも、どこからでも容易にアクセスできるように、情報収集、整理、提供の仕組みを構築・強化します。**

・（関連する課題）

課題② 情報提供の最適化

・（根拠となる町民ニーズ）

設問 5（参加しない理由：情報がない）

設問 6（生涯学習に関する情報の入手先）

設問 7（知りたい情報）

・（関連する基本目標）

基本目標 1（多様な学習ニーズに対応した機会の充実）

基本目標 2（主体的・継続的な学習への参加促進）

基本目標 3（学びを、地域での実践へと導く循環づくり）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|----------------|
| 生涯学習関連情報のオンラインでの一元化とアクセス性の向上の実現を支援します。 【施策2-3と連携】 | 社会教育課 秘書広報課 |
| 町民のニーズに応じた 学習情報の多角的な発信 を推進します | 社会教育課 秘書広報課 |
| 図書館における 生涯学習関連情報の充実とレファレンス機能 の活用が図られるよう促します。 | 社会教育課 |

施策5-3：デジタル技術を活用した学びやすい環境の整備と利用促進

・ねらい

オンライン学習や情報収集、施設予約等、デジタル技術を活用した学びの機会が増加している現状に対応するため、**公共施設におけるインターネット環境（Wi-Fi）やデジタル機器の整備**を進めるとともに、町民がデジタルを活用した学びを円滑に行えるよう、**デジタルツールの活用に関するサポート**等を行います。デジタルを活用した学びやすい環境を整備・促進します。

・（関連する課題）

課題④ 学びを支える環境（施設・設備・利便性）の向上

・（根拠となる町民ニーズ）

設問 2-2（希望する学習形態：インターネット等）

設問 11（町への優先度：ICT 機器等の整備、インターネットを利用した予約や情報入手）

・（関連する基本目標）

基本目標 1（多様な学習ニーズに対応した機会の充実）

基本目標 2（主体的・継続的な学習への参加促進）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|-------|
| 生涯学習センター及び各公民館における、 学習活動で利用するためのインターネット環境（Wi-Fi 等）及びデジタル機器の整備・提供 を行います。 | 社会教育課 |
| 学習活動（講座、サークル活動等）における、 デジタルツール活用に関する相談対応や情報提供 が行われるよう促します。 | 社会教育課 |
| 町民の学習の指針となるよう、学習に役立つオンライン学習コンテンツやサービスについて、 信頼できる情報を収集し、分かりやすく分類・整理して紹介する情報発信の充実 を図ります。 | 社会教育課 |

施策5-4：学びに関する個別のニーズに対応する相談支援体制の充実

・ねらい

学びの第一歩を踏み出したいが何をすれば良いか分からない町民や、「何を学びたいか分からない」「どう始めたら良いか分からない」「学習成果をどう活かせば良いか」等、学習に関する様々な疑問や悩みを持つ町民が、**気軽に相談し**、学びの方向性を探すための情報や、個別の状況に応じた**適切な学習機会・相談先等に関する情報に繋がれるよう、相談支援体制を充実します。**

・(関連する課題)

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

・(根拠となる町民ニーズ)

設問5 (参加しない理由：学習機会がない)

設問11 (町への優先度：相談窓口の設置)

・(関連する基本目標)

基本目標2 (主体的・継続的な学習への参加促進)

基本目標3 (学びを、地域での実践へと導く循環づくり)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|-------|
| 生涯学習センター及び公民館における生涯学習情報コーナーの設置や、窓口での簡単な質問・相談対応を推進します。 | 社会教育課 |
| 既存の学習プログラムメニューや情報資料を活用し、個々の状況に応じた学びの方向性探しの支援の充実を図ります。 | 社会教育課 |
| 専門的な相談内容については、適切な学習機会や外部相談先等への情報提供・案内が行われるよう促します。 | 社会教育課 |

基本目標6：ライフステージに応じた切れ目のない学びの推進

この最後の基本目標は、基本目標1から5までの取組を、子どもから高齢者まで、あらゆる世代に効果的に届けるための、いわば「縦串」の視点を提供するものです。生涯学習は、子どもから高齢者まで、全ての町民の人生に関わるものです。しかし、それぞれのライフステージ（乳幼児期、学童期、青年期、壮年期、子育て期、シニア期等）によって、学習への動機やニーズ、直面する課題、求める支援は大きく変化します。町民アンケート結果からも、学びたいテーマ、利用する情報源、参加しない理由、学びの成果や活用意向等に年代別の特徴があることが明らかになっています。この基本目標では、こうしたライフステージごとの特性を理解し、それぞれの時期に必要とされる学びや活動への円滑な接続を支援することで、「切れ目のない」学習機会を提供することを目指します。

具体的な取組としては、子ども・若者の学ぶ意欲を育み、地域社会の一員として自立し、活躍できるよう支援するプログラムの検討、働く世代や子育て世代の多忙さを考慮した、短時間・オンライン等の柔軟な学びの機会の創出、退職期を迎える世代やシニア層が、これまでの経験を活かし、新たな生きがいや社会とのつながりを見つけるための学習支援、高齢者の健康維持やデジタル活用をサポートする取組などを、各年代のニーズに合わせて強化します。また、障がいのある方、外国籍の方等、多様な背景を持つ町民が、それぞれのライフステージで必要とする学びや情報にアクセスし、安心して活動に参加できるよう、きめ細やかな支援体制を整備します。

これらの取組を通じて、世代を超えて互いの学びを支え合う社会を築き、それが町全体の「広がる学びの輪」となり、「まちの力」を育むことで、誰もがその生涯を通じて「いきいきと輝く杉戸」の主役であり続けることを目指します（基本目標1、2、3、4、5とも連携）。

この目標を達成するため、以下の施策に取り組みます。

施策6-1：各ライフステージの学習ニーズ及び関連情報の継続的な把握

・ねらい

町の生涯学習施策が常に町民の実態に即した有効なものであるために、子ども・青少年・成人・高齢者等といった各ライフステージ区分や、進学・就職・結婚・子育て・退職等のライフイベントごとの**学習ニーズ、関心事項、及び関連する障壁や課題**について、町民アンケート、関係団体との連携、日常的な相談等**多様な手法を用いて継続的に把握します。**

この継続的なニーズ把握を行うことは、以下に示す施策6-2から施策6-4までの各ライフステージに応じた具体的な取組を適切かつ効果的に推進するために不可欠です。これにより、町民一人ひとりの生涯にわたる豊かな学びを推進します。

・(関連する課題)：

計画の全課題(課題①、課題②、課題③、課題④)

・(根拠となる町民ニーズ)：

設問10(今後学習したい内容)

設問5(活動を行っていない理由)

設問11(町への優先度)

町民アンケート全般の年代別クロス集計結果

・(関連する基本目標)：

基本目標1(多様な学習ニーズに対応した機会の充実)

基本目標2(主体的・継続的な学習への参加促進)

基本目標5(学びを支える環境整備)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|--------------|
| <p>定期的な町民ニーズ調査(アンケート等)を実施・分析を推進します。 (文化・教養、スポーツ、地域活動など多様な分野のニーズを把握)</p> | <p>社会教育課</p> |
| <p>関係部署・関係団体との連携によるニーズ情報の収集に努めます。 (例：スポーツ団体、文化団体、NPO等との意見交換)</p> | <p>各課</p> |
| <p>各種行政データや事業実施状況の分析による潜在的ニーズの把握を行います。</p> | <p>各課</p> |

施策6-2：各ライフステージの特性に応じた、学びの機会及び情報提供の企画・実施

・ねらい

それぞれのライフステージの町民が興味を持ちやすく、参加しやすい学習プログラムやイベント、情報提供の方法を企画し、実施します。その際、施策6-1で把握した、各ライフステージの学習ニーズ・学びやすい時間帯・場所・形式等の特性を十分に反映させます。子ども向けの体験学習、働く世代向けのキャリア関連講座、高齢者向けの健康・趣味講座等、**対象に合わせたきめ細やかな対応を行います。**

・(関連する課題)

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

課題② 情報提供の最適化

・(根拠となる町民ニーズ)

設問 10 (今後学習したい内容)

設問 2-2 (希望する学習形態)

設問 5 (参加しない理由)

設問 7 (知りたい情報)

・(関連する基本目標)

基本目標 1 (多様な学習ニーズに対応した機会の充実)

基本目標 2 (主体的・継続的な学習への参加促進)

基本目標 5 (学びを支える環境整備)

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|---------|
| 子どもから高齢者まで、各ライフステージの特性に応じた学びの機会の充実を図ります。(例：子ども向け自然体験・スポーツ教室、働く世代向けキャリアアップ講座、高齢者向け健康づくり・趣味講座等) | 社会教育課 等 |
| 各ライフステージの特性に合わせ、学びに関する情報提供の方法を工夫する取組を推進します。(例：子育て世代には SNS、高齢者層には 広報紙や回覧板を重点的に活用する等) | 各課 |
| ライフイベントに関連した学習機会の情報提供や啓発イベント等企画・実施を推進します。(例：就職期には就労支援機関と連携した情報提供、退職期にはセカンドライフに関する講座を開催する等) | 社会教育課 等 |

施策6-3：ライフステージの変化に伴う学びへの円滑な接続支援

・ねらい

進学・就職・結婚・子育て開始・離職・退職等といった大きなライフイベントは、新たな学習ニーズが生まれたり、学びのスタイルを見直す必要が生じたりする機会となります。これらの**ライフステージの変化に直面する町民が、必要な学習情報や関連支援にスムーズに繋がれるよう**、行政内の関係部署（子育て・高齢福祉・産業振興等）との連携を深めるとともに、教育や就労等に関する外部機関（学校・ハローワーク等）との連携の可能性を模索し、**必要な連携体制の構築を目指します。**

・（関連する課題）

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

課題② 情報提供の最適化

・（根拠となる町民ニーズ）

設問 4（生涯学習を始めたきっかけ：人生の転機）

・（関連する基本目標）

基本目標 1（多様な学習ニーズに対応した機会の充実）

基本目標 2（主体的・継続的な学習への参加促進）

基本目標 4（地域資源及び多様な主体との連携・協働）

基本目標 5（学びを支える環境整備）

・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|---|---------|
| 町民一人ひとりのライフステージの変化を、新たな学びに繋げる好機と捉え、 関係各課の情報交換・連携体制 を強化します。 | 各課 |
| 教育・就労、健康づくり等に関する 外部機関との連携 の可能性を探り、その実現を推進します。（例：学校、ハローワーク、地域の健康増進施設やスポーツ団体等） | 社会教育課 等 |
| ライフイベントに関連した学習情報・支援情報 の充実に努めます。 | 社会教育課 等 |

施策6-4：多世代交流・連携を通じた学びの推進

・ねらい

異なるライフステージにある町民同士が、**互いの知識や経験を共有し、共に学ぶことができる多世代交流の機会を企画・促進します。**子どもが高齢者から伝統文化を学んだり、働く世代が子育て世代を支援したり等、多世代が関わることで、新たな発見や共感が生まれ、**豊かな学びと地域内の繋がりが育まれる環境を整備します。**

・（関連する課題）

課題① 学習への参加を阻む障壁への対応

課題③ 学習成果の活用促進と機会の創出

・（根拠となる町民ニーズ）

設問9（子ども支援や、住民向け講座の支援など、世代を超えた活動への参加意向）

設問10（地域の歴史・文化や青少年育成といった、多世代交流により学びが深まるテーマへの関心）

設問3（社会参加や地域活動に役立てたいという学習動機）

・（関連する基本目標）

基本目標1（多様な学習ニーズに対応した機会の充実）

基本目標3（学びを、地域での実践へと導く循環づくり）

基本目標4（地域資源及び多様な主体との連携・協働）

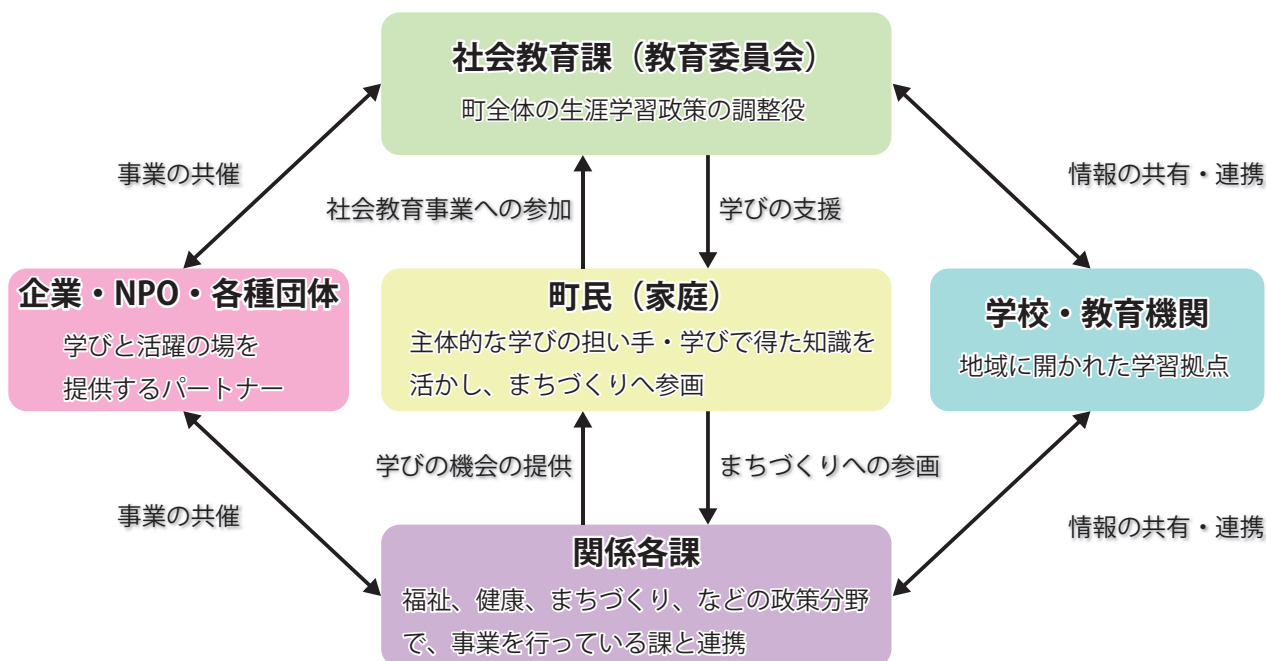
・主な具体的事業例

| 事業内容 | 主な所管課 |
|--|---------|
| 子どもと高齢者等、異なる世代が共に楽しむ交流型プログラムの企画・実施を推進します。（例：高齢者が子どもに昔ながらの遊び（伝承スポーツ）を教える会、多世代で楽しむ軽スポーツイベント等） | 各課 |
| 異なる世代が持つ知識・経験・技能を伝承・交換し、相互に学び合う機会の充実を図ります。（例：若者が高齢者にスマートフォンの使い方を教える「スマホ教室」、高齢者が若者に伝統工芸や郷土芸能（神楽・囃子など）を教える「伝承教室」等） | 各課 |
| 多世代交流を促進する学習・活動スペースの提供や、多世代参加型イベントの開催を支援します。 | 社会教育課 等 |

第4部 計画の推進

1. 推進体制

本計画を実効性のあるものとして着実に推進していくためには、行政だけでなく、町民一人ひとり、そして地域で活動する多様な主体が、それぞれの役割と特性を活かしながら連携・協働していく「オールすぎと」での体制づくりが不可欠です。これらの多様な主体が連携・協働する推進体制のイメージを、以下の【図8】に示します。



【図8】計画の推進体制

(1) 町の役割

本計画の推進にあたり、町（教育委員会社会教育課）は、町全体の生涯学習施策を総合的に企画・調整し、推進する「舵取り役」としての役割を担います。生涯学習センターの運営においては、指定管理者が提供するサービスの質が最大限に高まるよう、適切な管理監督（モニタリング）と、円滑なパートナーシップの構築に努めます。

また、生涯学習が特定の分野に偏ることなく、福祉・健康・まちづくり・産業・環境といった町のあらゆる政策分野と連携し、全庁的に推進されるよう、関係各課との情報共有と連携強化を図ります。

(2) 多様な主体との連携・協働

生涯学習社会の実現は、町民、家庭、地域、学校、企業、NPO、学習・文化・スポーツ団体といった多様な主体との連携・協働によって、より豊かに、力強く推進されます。町は、これらの多様な主体が持つ専門性や活力を尊重し、それぞれの活動を支援するとともに、相互のネットワークづくりを促進することで、地域全体の教育力を高めていくことを目指します。

① 町民・家庭

町民一人ひとは、生涯学習の主役です。町は、町民の自発的・主体的な学びを支援するとともに、学びを通じて得た知識や経験を地域で活かす「まちづくりの担い手」としての活躍を期待し、その機会の創出に努めます。

また、家庭が地域社会の教育力を支える最初のステップであることを鑑み、親子で参加できる学習機会などを通じてその役割を支援します。

② 学校・教育機関

学校は、子どもたちの学びの場であると同時に、地域に開かれた学習拠点としての大きな可能性を秘めています。町は、学校が持つ施設や人材といった資源を地域のために活用できるよう、学校と地域の連携を促進します。

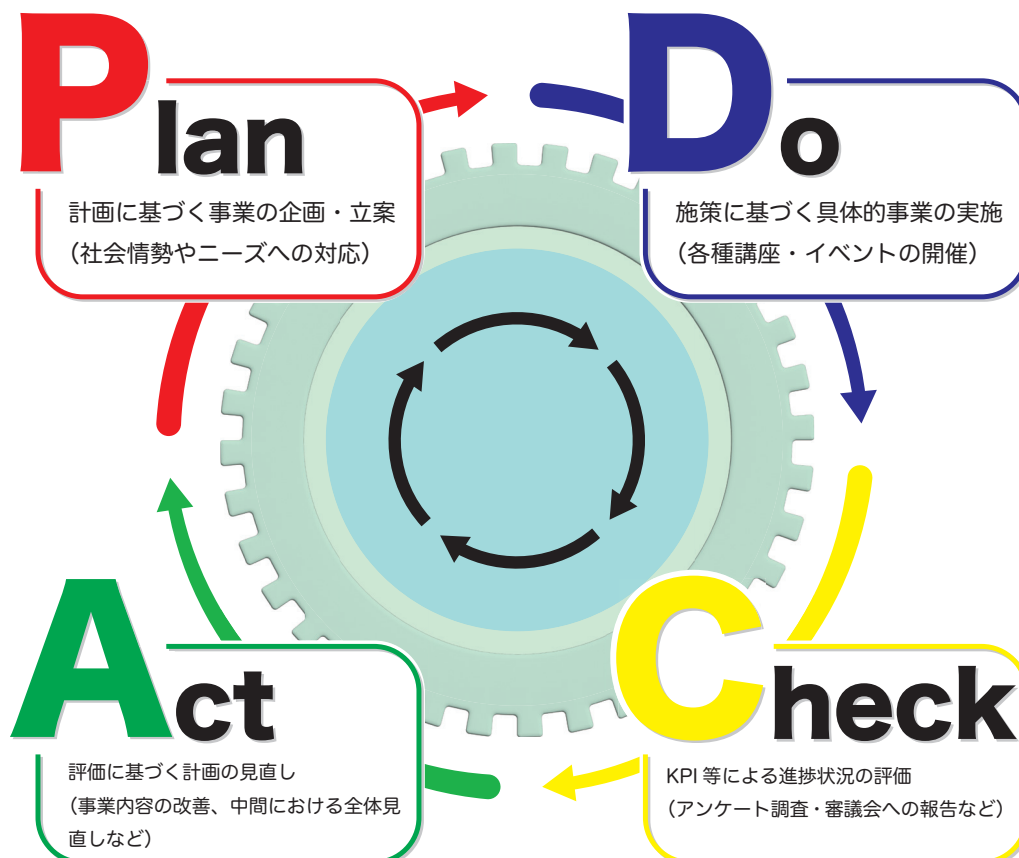
また、子どもたちの豊かな学びのために、地域の人材や資源を学校教育に活かす「地域とともにある学校づくり」を支援します。

③ 企業・NPO・各種団体（指定管理者を含む）

企業やNPO、専門的な学習・文化・スポーツ団体は、行政だけでは提供できない質の高い学びの機会や、学習成果を活かす多様な活躍の場を提供する、重要なパートナーです。特に、生涯学習センターの運営を担う**指定管理者**とは緊密な連携を図り、その民間ならではの発想力やネットワークを最大限に活かした事業展開を期待し、支援します。

2. 進行管理と評価

本計画を社会情勢の変化や町民ニーズに的確に対応した、実効性のあるものとして推進するため、計画（Plan）・実行（Do）・評価（Check）・改善（Act）からなるPDCAサイクルに基づき、継続的な進行管理と評価、見直しを行います。



【図9】PDCA サイクル図

(1) 進行管理

計画に掲げた各施策及び具体的事業例の進捗状況について、社会教育課が中心となり、全庁的な連携のもとで定期的に確認・把握します。特に、**指定管理者**が実施する事業については、協働のパートナーとして緊密な情報共有を行いながら、仕様書や協定書等に基づく適切なモニタリング（履行状況の確認）を実施し、事業が計画の趣旨に沿って効果的に展開されるよう努めます。これらの進捗状況については、町のウェブサイトや広報紙等を活用して、町民に分かりやすく公表します。

(2) 評価と見直し

本計画の各基本目標の達成度を客観的に評価するため、**例えば「働く世代の生涯学習参加率」や、町民満足度アンケートにおける「学習機会の充実度」、そして「学習成果を地域活動に活かした町民の割合」といった、計画のねらいに直結する具体的な成果指標（KPI）を設定します。**これらの指標や進捗状況の分析・評価結果は、定期的に杉戸町生涯学習審議会へ報告し、意見を聴取します。また、計画期間の中間年にあたる令和12年度には、前期5年間の成果と課題を総括し、社会情勢の変化等を踏まえた上で、後期5年間の計画内容に関する全体的な見直しを行います。さらに、計画期間の終盤においては、これまでの成果を総括し、次期計画への円滑な継承を図ります。